

# 日本経済新聞

3月22日  
月曜日

静岡県にソニーと取引するメロン農家がある。行き交う商品はメロンでも家電製品でもなく、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出枠だ。

温室メロンの一大産地 同県袋井市。室温33度の温室に重さ1・5kgのメロンがたわわに実る。3代続く栽培農家の小林隆志(36)は重油価格の高騰を受け、2009年1月に温室の暖房設備の燃料を重油から、木くずを固めた燃料に変えた。

## ソニーに排出枠

小林は近隣のメロン農家5軒と遠州木質燃料利用組合を設立。09年度は合計で年間約800kgの木質燃料を使い、重油使用時に比べ1・392分の

## 日本の農力

### 第5部 宝は眠っている

## 売り物は環境対策

枠1トの売価は1000円に相当する1個5250円程度が相場とされる。円。これまでに100個組合は140万円前後の副収入が見込めるだけではない。環境への負荷を減らして栽培した農産物に、相応の対価を支払う消費も増えている。

## 間伐材を「売れる木」に



ボイラーに木質燃料を使うハウスで育つメロン (静岡県袋井市)

伐した木の材料や燃料用のチップ材などに加工して販売。12年に4億7000万円の売り上げを見込む。

### 「地産地焼」探る

林野庁によると、国内で間伐された木材の7割は放置されたままになっている。年2000万立方メートル、一般的な木造住宅40万戸分に匹敵する量だ。

木質燃料を求める農業や企業と、間伐材を売りたい林業が協力できる余地も大きい。群馬県東吾妻町で10年度から火力発電所を運営する吾妻パワーカーは、県森林組合からチップ材を調達する交渉を始めた。社長の木寺靖(50)は「流

「地産地焼」の仕組みをつくりたい」と話す。「花の世界で環境への取り組みが後手に回るようでは、海外勢に勝てない」と危機感を強めるのは、ロケラム「MPS」を取り得、重油を使った暖房機の代わりに電気式のヒートポンプを導入して、CO<sub>2</sub>排出量を45%削減した。環境への負荷を抑えた国産のバラであること

1・4倍の1430万本に急増した。メルヘンローズは世界30カ国で導入されている花の世界的な環境認証プログラム「MPS」を取

出荷量は年間300万本以上になる。バラの国内消費量が減少を続ける中、流通市場ドルは高く、農林業が貢献できる余地は大きい。それを自らの競争力向上につなげる工夫が求められている。(敬称略)

国産の輸入量が、前年比25%削減するという目標化カスを1990年比で政府は20年までに温暖に対抗する戦略だ。消費者に訴え、輸入品を消費する。ハ

CO<sub>2</sub>削減を見込む。大企業が中小企業の温暖化対策を支援する見返りに、排出枠を得る経済産業省の「国内クレジット制度」を活用し、ソニーに排出枠を売却する。相対取引で決まる排出

高級果実を販売する正時点で248件。うち農産物の需要拡大は林業を発生させたりする。県と同連合会は5億円を投じて間伐材専用の加工場を建設。来年4月からは本格的に稼働させる計画だ。森林の所有者が

「我々は林業の潜在力を」とも朗報だ。

「我々は林業の潜在力を」とも朗報だ。

「我々は林業の潜在力を」とも朗報だ。

「我々は林業の潜在力を」とも朗報だ。

「我々は林業の潜在力を」とも朗報だ。

「我々は林業の潜在力を」とも朗報だ。

「我々は林業の潜在力を」とも朗報だ。

「我々は林業の潜在力を」とも朗報だ。

「我々は林業の潜在力を」とも朗報だ。

「我々は林業の潜在力を」とも朗報だ。

「我々は林業の潜在力を」とも朗報だ。

「我々は林業の潜在力を」とも朗報だ。

「我々は林業の潜在力を」とも朗報だ。

「我々は林業の潜在力を」とも朗報だ。